

首里城公園企画展「椿展 ～琉球漆器に描かれた椿模様～」実施結果報告

大城 樹^{*1}

はじめに

首里城公園南殿二階特別展示室では、常時文化財を展示公開する常設展示・企画展示を行っている。今回は、「椿展 ～琉球漆器に描かれた椿模様～」という名称で、琉球王国でも愛された椿模様が描かれた美術工芸品を、展示で解説することを意図した企画展を実施した。また、今回の展示会の実施が、入館者にどのような反響を与えたのかを確認するため、当財団では、展示期間中に一定期間を設けアンケート調査を行った。そこで、企画展「椿展」の実施結果を報告しながら、アンケート集計内容を紹介し、入館者の動向を分析し考察を行ってみた。

1 企画展の実施概要

- 1) 企画展の名称：「椿展」
- 2) 日程：平成25年1月15日（火）～3月15日（金）※好評につき、会期を4月4日（木）まで延期
- 3) 会場：首里城公園南殿二階特別展示室
- 4) 期間中の入館者：437,828名（うち、アンケート期間中の入館者は71,358名）
- 5) 企画展の展示レイアウトと展示資料

本企画展では、テーマに沿った琉球王国時代の文化財の展示を行った。展示に活用した文化財の総件数は10件19点で、公開した文化財は、一点を除き、一般財団法人 沖縄美ら島財団所蔵資料である。企画展の展示レイアウト・アンケート集計グラフと展示資料は附録を参照。

6) 広告の実施

(1) 首里城公園ホームページの活用

首里城公園のホームページに、展示内容を更新して掲載し、周知を行った。

(2) パブリシティ広告の活用

県内新聞紙・雑誌の無料掲載欄を積極的に活用し、開催の告知を行った。

(3) 告知チラシ

A4判両面カラー告知チラシを20,000部作成し、県内博物館・図書館・観光地等を中心に配付した。

7) 入館者プレゼントの実施

入館者に企画展及び琉球の文化財に関心を持ってもらおうと、会場内に設置したキーワードと企画展に関するアンケートを応募用紙に記入し、会場内で応募してもらい抽選で財団所蔵の所蔵品図録をプレゼントする取り組みを行った。アンケートの実施内容及び集計結果は次項を参照してほしい。

2 アンケートの実施

1) アンケートの記入方法

会場内に設置したキーワードと企画展に関するアンケートを応募用紙に記入し、会場内で応募してもらい、抽選で財団所蔵の文化財図録をプレゼントする取り組みを行った。

*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係

2) アンケートの項目

アンケートの項目は下記の通り。

〔表面〕 図録プレゼント応募用紙

◆氏名 ◆性別 ◆住所 ◆キーワード

〔裏面〕 アンケート

Q3：年齢 0～10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

Q4：首里城公園への訪問は何回目ですか？ 初めて 2回目 3回目 4回目以上

Q5：今回の企画展をどうやって知りましたか？

ホームページ ポスター・チラシ 新聞 () 情報番組・ニュース 情報誌・雑誌 ()

ラジオ (FM沖縄：「風にふかれて首里城めぐり」など) ここに来て知った

前回の展示会を見て その他 ()

Q6：企画展の告知方法として、どのような方法が効果的だと思いますか？ ※複数回答：可

ホームページ ポスター・チラシ 新聞 情報誌・雑誌 CM(テレビ or ラジオ)

その他 ()

Q7：今回の企画展はどうでしたか？

非常におもしろかった おもしろかった 普通 おもしろくなかった

Q8：次回は企画展「〇〇〇」が開催されますが…

見に行きたい 考え中 見に行かない その他 ()

☆ご意見・ご感想

なお、プレゼントの応募用紙に記入させる方式をとったので、アンケート記入者の出身地がかなり正確に調査できた。

3 アンケート結果と分析

1) アンケート期間

平成25年1月15日～1月29日 (企画展開催中、一定期間(15日間)でアンケートを行った。)

2) アンケート回答数

図録プレゼントの応募件数は、期間中659件あった。そのうちアンケートまで記入された応募者は498件、プレゼント応募者中のアンケート回収率は75.6%であった。アンケート回答件数は、アンケート期間中(15日間)の入館者(71,358人)に占める割合で0.7%であった。

3) 企画展見学者の出身地の割合

アンケートに回答した企画展見学者の出身地の割合は、県内客が5.8%、県外客が93.6%であった。これにより、圧倒的に県外客が多い事が分かる。その内訳をさらに紹介すると、県内客は那覇市が31.0%で最も多い。その他市町村は全て5人以下であった。県外客の内訳は、東京都が12.2%、千葉県が9.2%、埼玉県が9.0%と関東圏が多い。

4) 年齢

50代の19.9%、30代と60代の18.7%が全体の上位を占め、次いで40代の14.5%、20代の13.3%とほぼ近い割合であった。0～10代は9.8%、70代以上は5.2%と回答が少なかった。50代が多い要因としては、格安航空が多発し、これまで金額が高いとされてきた沖縄県への旅行が安易となった事や、冬の寒い時期に、暖かい沖縄へ訪れる方が多かったのではないかと思われる。また、同時期に全国椿サミット沖縄大会が開催された事も、何らかの関係があるように思われる。

5) 性別

男性が32.7%、女性が66.5%であり、女性の回答が多く関心が高かった。企画展のテーマが「椿」と判りやすいテーマであり、生活に身近な美術工芸品である漆器の影響も手伝い、女性の記入が多かったものと思われる。

6) 企画展の事前認知度

「今回の企画展を何で知りましたか？」に対して、72.0%の大多数が「ここに来て知った」と回答している。事前にマスコミリリース、首里城公園ホームページでの告知を行ったのだが、入館者増には繋がらなかったように思われる。また、事前に知っていて見学した入館者は、チラシが10.0%、ホームページが6.4%であった。「告知の方法として、どのような方法が効果的」か質問したところ、ホームページが34.2%、CMが17.7%、情報誌・雑誌が17.4%とメディアの活用を回答している割合が多かった。その他、少数意見に「ホームルーム」や「ツイッター」や「フェイスブック」など、近年頻繁に利用されるようになった通信関係(SNS)の活用が挙げられている。

7) 企画展の満足度

企画展の満足度について、「非常に面白かった」と回答した入館者が52.6%、「面白かった」と回答した入館者が45.6%と、全体の98.2%の方が満足したとしている。どのような内容に満足を得ていたかは、文末のご意見・ご感想報告に書かれているので参照してほしい。

8) ご意見・ご感想の記入内容

ご意見・ご感想の内容には「東京から来たかいがありました。また、来たいです!」や「遠くから来てよかったです。ここでしか見られないものが見れました。」「お宝を拝見できてとてもよかったです。はるばる北海道から来たかいがあります。」など、概ね好評な意見が多かった。また、今回も「カミマヤア〜」(当財団所蔵「月下神猫図」をモデルとした解説キャラクター)と「ハクタクおじい」(当財団所蔵：県指定文化財「白澤之図」をモデルとした解説キャラクター)のキャラクターを使って資料の解説を行ったが、「イラスト等を使って非常に分かりやすかった。」や「かわいいキャラクターの説明が、子供にもうけ入れやすくてよかったです。」「案内役のハクタクおじいとカミマヤアがおもしろかったです。お父さんといっしょにふきだしの中を読みました。」という意見が多くあった。キャラクターを使用する事は、内容が難しく感じて素通りしがちな子どもにも、まずは目にとまり、見てみると内容が分かりやすくて面白い!となるようである。今後も、子どもにも興味を湧く展示方法を心がけていきたい。他にも「季節柄、椿に着目してよいと思います。」や「椿に着目されたのが良かった。(他ではそれほど見ないので)」など、見学者にとって、身近でよく知っているテーマであるのに、更に新しく知る事があつたりと、入り込みやすい内容の展示であった事が満足度に繋がっていると思われる。さらに、「いろいろな企画展があれば見に行きたくなります。」や、「沖縄県出身ですが、琉球漆器の事なんて全くわからなかった。この企画展で少しでも知ることができてよかったです。」という意見もあった。

4 まとめ

本企画展は、「椿」の花模様という事で県内外共通の内容であつたり、時期的にも合っていたという事で、会期を延長するほど大変好評であつた。更にはアンケートの満足度も98.2%にのぼり、これまで入館者が認知している椿と、琉球王国での椿との繋がりについて展示を通して知ることにより、新たな発見と知識の再確認という両方の特色を兼ねつつ、首里城公園の利用促進を実施する事ができたのではないかと思われる。

広報告知が弱かったため、今回の企画展の実施が大きく入館者の増加に繋がったとは思えないが、満足度が高く、アンケート回答者からの意見・感想に肯定的な意見が多かったことから、見学した入館者が、首里城

公園に対して好印象を持ち、より良い知識を得た事で喜んでいただけたと思われる。

「ここに来て知った」方が半数以上である事から、首里城へ来る殆どの方が「企画展を見る」事がメインではないように思われるが、首里城へ訪れた方が、観光で来ているのに、すんなり展示に惹かれ、「来て良かった」と思っていたけるような内容の企画展を実施する事により、満足度向上に繋がっていくのなら、今後も身近な内容を含めつつ、様々な企画展を開催し続けていくことが大切だと感じる。それにより、自ずと見学者から未見学者へと口コミにより広まっていき、新たな見学者やリピーターが増えていく事に繋がっていくのではないかと思う。

「いつ来ても同じ」ではなく、「いつ来ても良い」と思っていたけるよう、このアンケートの意見・感想にあった事を踏まえつつ、これからも「身近な首里城」のイメージがつかうようにしていきたい。

告知チラシ

首里城公園
SHURI CASTLE PARK

首里城公園企画展
椿展
～琉球漆器に描かれた椿模様～

<場 所> 首里城公園 有料区域 南庭一階 特別展示室
<期 間> 平成25年1月15日(火)～3月15日(金)
<お問い合わせ> 首里城公園管理部 TEL.098-886-2020

首里城正殿

首里城公園企画展
椿展
～琉球漆器に描かれた椿模様～

椿は、生命力の強さから長寿をあらわすおめでたい模様として親しまれてきました。琉球王国でも、椿の花模様は愛され、琉球漆器などの美術工芸品に描かれてきました。今回は、琉球漆器に描かれた鮮やかな椿の花模様を首里城南庭でお楽しみ下さい。

朱漆花鳥七宝密陀鉢沈金御供飯(復元)
原資料は、徳川家康から足利徳川家初代藩主、徳川英直に形見分けされた琉球漆器です。平成19～24年まで約5年の歳月をかけて復元製作を行いました。椿の花模様の中にたくさんの鳥や昆虫が飛び交う美しい模様となっています。

朱漆花鳥七宝密陀鉢沈金御供飯(復元)

白密陀花鳥高鉢盆
白色の地色の中に墨石から伸びる椿が描かれています。淡い色合いの梅の間に、箔絵(金箔)で描かれた鳥が飛び交っています。

白密陀花鳥高鉢盆

黒漆花鳥密陀鉢食籠
花形の器形の食籠に鳥が椿の間を飛び交う図案となっています。椿や鳥を描く技法は密陀鉢といい、油に様々な色顔料(絵の具)を混ぜて強い色を表現したい場合に、よく使われる技法です。

黒漆花鳥密陀鉢食籠

当園前のご案内

1. 路線バス 首里城公園入口バス停にて下車。徒歩約5分。
2. モノレール(ゆいレール) 首里駅又は豊原駅にて下車。徒歩約15分。
3. 7-8番・首里地下町線 首里駅南側、首里城跡にて下車。徒歩約2分。
3. 乗用車・首里城跡地下駐車場(有料)をご利用下さい。